

シンポジウム 2

全身骨粗鬆症と歯槽骨喪失の相関

高石歯科医院

高石 佳知

世界各国における急速な高齢化に伴い、寝たきりによる生活の質（QOL）の低下が深刻な健康問題になっている。特に、骨折による寝たきり、認知症に繋がる骨粗鬆症と、歯の喪失のみならず生活習慣病として全身疾患への関与が取り沙汰されている歯周病の影響は、今後、より深刻になると予想され、問題解決が急がれる。

顎骨の骨喪失は、骨粗鬆症の低い骨密度（BMD）に関連し、全身の骨粗鬆症では、顎骨、特に、歯槽骨に骨粗鬆症徴候がまず発現する。そして、骨粗鬆症患者は、歯の喪失数が健常者より多いことから、歯を支える歯槽骨吸収の予防と治療方法、特に、診断方法として歯槽骨 BMD 評価方法の確立が現在最も必要とされている。

顎骨 BMD 評価方法には、DXA、pQCT、CT を使用した方法がある。しかしながら、これらの方法は被曝線量が多いこと、費用が高額であること、再現性が困難であること等から、一般臨床での顎骨 BMD 測定は困難である。また、従来の技術では、BMD を経年的に、正確にチェアサイドにおいて短時間で比較評価する事が困難であった。

今回新たに開発された歯槽骨 BMD 評価装置と方法が、歯槽骨吸収の診断方法として極めて有用であること、そして、全身骨粗鬆症と歯槽骨喪失の相関を報告する。

- ・対象：日本人閉経後女性 40 名，50 代，60 代各 20 名を調査した。
 - ・歯槽骨 BMD の評価方法：デンタル X 線フィルムに、アルミニウムステップウエッジを貼り、下顎第 1 小臼歯部を撮影する。輝度値を補正する BMD 評価ソフトウェアを使用し、歯槽骨 BMD を評価した。
- 1) 歯槽骨 BMD は、腰椎 BMD，踵骨 BMD と同様、加齢により減少する。
 - 2) 歯槽骨 BMD は、腰椎 BMD，踵骨 BMD と有意に相関する。

結論：今回のデンタル X 線フィルムを使用した歯槽骨 BMD 評価方法は、安価で、毎日の歯科臨床に広く応用されると考える。

プロフィール

●専門分野 生化学，歯周病学，歯科審美学

●略歴

1979年3月 大阪歯科大学卒業

1980年12月 高石歯科医院院長

1993年4月 歯学博士授与

1999年9月 骨粗鬆症ネットワーク 理事

2004年4月 大阪歯科大学学生化学講座 非常勤講師

2005年4月 医療法人社団天聖会高石歯科医院 理事長

2005年11月 生活習慣病ネットワーク 副代表

現在に至る

●学会活動等

日本骨粗鬆症学会，日本歯科骨粗鬆症研究会，日本歯周病学会，米国審美歯科学会，日本歯科審美歯科学会，日本口腔インプラント学会，日本小児歯科学会，生体材料学会，日本歯科産業学会

日本歯科産業学会（評議員 2001年7月～）

日本歯科骨粗鬆症研究会（常務理事 2002年9月～）

日本骨粗鬆症学会（評議員 2002年10月～）